

空港臨海部グランドビジョン2040（素案）に対するパブリックコメント実施結果

「空港臨海部グランドビジョン 2040（素案）」に対する区民意見公募手続（パブリックコメント）の意見募集期間中に区へ寄せられたご意見とこれに対する区の考え方をお知らせします。

1 意見提出期間

令和3年11月9日（火）から令和3年11月30日（火）まで

2 意見の提出件数

- ・意見者数 3名（内訳：FAX 2名、電子申請 1名）
- ・意見数 15件

3 提出された意見の要旨と区の考え方

ご意見については、趣旨を損なわない範囲で要約または一部を抽出しています。

全体

No.	意見要旨	区の考え方（案）
1	今後、「20年後の空港臨海部のグランドビジョン」の検討は、若者を多く交え、未来志向で創造的な検討をすべきである。	若い世代の方を含め、幅広い年代の方のご意見を踏まえながら、2040年における将来像の実現に向けたまちづくりを進めていきます。
2	対象エリアの居住は限定的なので、産業中心に考えて良いと思うが、自然環境の創出や、観光、アート芸術などを盛り込み、区民の関係性が保持できる空間構成が必要である。	本ビジョンにおいては、P45及びP46「空港臨海部の将来像」に記載しています。自然資源・スポーツ・アートの拠点として、空港臨海部で働く方だけでなく、区民や来街者に親しまれる空港臨海部を目指していきます。
3	対象範囲の地目を一部変更または既存ホテルの上層階をマンションに変更して人が住める様にすれば、都会に住みながら平日は窓から良い景色を眺める事ができ、週末は水辺や緑に接する事ができるので充実した生活ができるようになる。	P50「将来都市方針図」では、主にものづくりや物流など産業に関する土地利用を基本方針として記載しています。いただいたご意見につきまして、今後の参考とさせていただくとともに、区民・来街者・働く方に親しまれる空港臨海部を目指していきます。
4	大田区は、羽田空港にも新幹線の品川駅にも近いので、自家用車を使用して通勤する必要がなくなり、自転車を利用して通勤することができるため渋滞の緩和及びCO2の削減に貢献する事が出来るようになる。	自転車の利用により渋滞の緩和及びCO2の削減に貢献できるものと考えています。本ビジョンでは、P70「周遊軸の強化・形成」プロジェクトに、「自転車などのパーソナルモビリティの利用促進を図る。」と記載しています。
5	区民に理解してもらうには余りに言葉が分かりにくいものが多い。臨海部は住民を想定していないかもしれないが、中小企業の多い	国や東京都などが使用する用語で一部難しいものもありますが、本来の意味とズレが生じないようにそのままの表現とし、注釈としてその用語の解

	大田区で働く人たちや多くの区民にこの計画を理解してもらおうという気持ちが伺えない。	説を入れさせていただきます。 引き続き、区民等へ本ビジョンの周知を図っていきます。
--	---	--

1. 空港臨海部グランドビジョンとは

No.	意見要旨	区の考え方（案）
6	「グリーンプランおおた」も関連個別計画に追記すべきである。	空港臨海部には、貴重な公園・緑地などの資源も多く、「グリーンプランおおた」を踏まえて本ビジョンを作成しています。P1「ビジョン 2040 の位置付け」の関連個別計画に「大田区緑の基本計画」と記載がありますが、「グリーンプランおおた」のことを指しています。

2. 空港臨海部の現状と 2040 年の将来動向

No.	意見要旨	区の考え方（案）
7	新型コロナウイルス感染症は社会に大きな影響を及ぼし、先行きが見えない状況の中、本ビジョンでは「影響を考慮し」と書かれているが、「影響を考慮してどう対応するのか」書かれていない。今年度中に本ビジョンの策定をやみくもに急がず、もっと見極めてから案を作成した方が良い。	本ビジョンにおいては、P41 及び P42「新型コロナウイルス感染症の影響想定」に記載していません。新型コロナウイルス感染症は、新たな生活様式への変化、デジタル化・自動化などを一層加速させるものとなりました。本ビジョンでは、新型コロナウイルス感染症によるまちづくりへの影響を踏まえ、「産業分野」・「都市インフラ」及び「ライフ/ワークスタイル」の3つの分野で整理して作成しています。 また、新型コロナウイルス感染症の影響については、上記のとおり検討を行っており、社会状況の変化に対応するため、今年度中の策定を進めていきます。

3. 空港臨海部の将来像

No.	意見要旨	区の考え方（案）
8	「多様な人々が交流・挑戦する“未来型創造都市”」とあるが、その前に区民や働く人たちがどう思っているか、きめ細かく把握してほしい。	2040 年の空港臨海部の将来像につきましては、区内にお住まいの方・働かれている方・通学されている方を対象としたアンケート、企業を対象とした意見交換会を開催し皆様のご意見を踏まえて作成しています。

4. 将来像の実現に向けた基本方針

No.	意見要旨	区の考え方（案）
9	水辺や樹木などの緑被率やオープンスペースなどの比率を島ごとに設定し、干潟の確保や動植物の生育環境を確保するのも良い。	P 48 基本方針②：「人の活動と自然の調和」では、「産業・観光・レジャー・自然が調和したまちを実現する」と記載しています。 いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきますとともに、「大田区緑の基本計画」などの個別分野における計画と連携し、自然環境と共生したまちづくりを進めていきます。
10	城南島は干潟や緑、生物など自然環境を活かす場（動物園・植物園など観光拠点に繋げることも可能か？）とするのも良い。	P 48 基本方針②：「人の活動と自然の調和」では、「公園・緑地・水辺空間等の資源を活かし、産業・観光・レジャー・自然が調和したまちを実現する。」と記載しています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
11	昭和島、京浜島は既存産業を活かしながら時流の先を見て魅力ある産業を想像して欲しい。	本ビジョンにおいては、P 47 基本方針①：「高度な産業の集積拠点」に記載しています。高い技術力を活かす企業の成長促進、新たな挑戦を試みる企業の誘致・育成をすることなどにより、新たな価値を創出する高度な産業の一大集積拠点を形成していきます。
12	現状、それぞれの島の位置付けはあると思うが、全体の位置付けを見直し、既存機能を含め再配置の検討も必要と思われる。	P 50「将来都市方針図」の中で、2040年における各エリアの主な位置付けを「物流の場」・「ものづくりの場」などと記載しています。いただいたご意見につきましては、今後、社会状況の変化への対応を検討する際の参考とさせていただきます。
13	空港や港湾などの立地を活かす企業誘致を考えても良い。	本ビジョンにおいては、P 47 基本方針①：「高度な産業の集積拠点」に記載しています。空港臨海部の強みのひとつである空港や港湾を活かし、国内外企業との連携、新たな挑戦を試みる企業の誘致・育成を目指していきます。
14	空港臨海部エリア内の交通を考えるのではなく、区民（特に台地部）の交通アクセスも考慮し、全区民が関心を持ち訪問し活用できる空間にすべきである。	本ビジョンにおいては、P 49 基本方針③：「次世代のインフラ整備」に記載しています。区民・来街者・働く方にとって、親しみのあるエリアを形成していくために、空港臨海部内の交通だけでなく、空港臨海部へのアクセス向上を目指してまちづくりを進めていきます。

5. プロジェクト

No.	意見要旨	区の考え方（案）
15	特になし。	—

6. 実現に向けて

No.	意見要旨	区の考え方（案）
16	ビジョンの実現に向け、環境先進企業や都市づくりに強い大学・研究機関などとの連携も重要である。	本ビジョンにおいては、P 79 及び P 80「ビジョン 2040 の実現に向けて」に記載しています。ビジョンの実現に向け、区民、企業、大学等の研究・開発機関と連携してまちづくりを進めていきます。